

若葉の香りが呼んでいる！

遠い山並みの向こうから、爽やかな風が駆け抜ける。



## 新緑の季節

# 馬と一緒にどこへにこう！？

—もくじ—

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 第1回 総会 より             | 1 ページ |
| 乗馬会レポート（3月、4月、5月）     | 2     |
| 第9回「馬と健康社会」研究会レポート（3） | 5     |
| 「自然・馬・人の会」ってこんな会です    | 6     |

111

111

111



## 2001年度 総会が開催されました

2001年5月20日（日） 14:00

小田原市中央公民館 4F 第3会議室

参加家族： 11名

委任状： 19名

「自然・馬・  
人の会」も、発  
足から四年が経  
ち、この度、初  
の総会を開催す  
ることができま  
した。

これまで会の  
運営には運営委  
員会が当たつて  
きました。今後  
もこのような形  
で、裏方を務め  
ていくと思いま  
すが、様々な会  
の方針などを決  
めるに当つて、  
そろそろ、会員  
みんなで話合つ  
て決めるようにな  
るべきとの考え方  
から総会を開催

会報 「土岐・運・来」 第十五号  
発行 自然・馬・人の会  
発行日 2001年6月10日（日）  
ただいまの会員数 七十二家族

するに至りました。

まだまだ未熟 不備な点がたくさんあります  
が、今後もご協力をお願いします。

総会では、次の事柄について報告、話し  
合いがなされました。

- 一、開会のあいさつ
- 二、二〇〇〇年度事業報告
- 三、二〇〇〇年度会計報告
- 四、二〇〇一年度事業計画
  - ・新しい会員制度
  - ・持ち馬について
  - ・サドルバックでの乗馬会の開催について
- 五、二〇〇一年度予算案
  - ・新しい会計制度
- 六、閉会のことば

議事の詳しい内容につきましては、別途  
お知らせします。



土岐・運・来

いつも、ありがとうございます！

「自然・馬・人の会」では、次の方々（団体）の協力のもと、活動を進めております。心より感謝申し上げます。（敬称略・順不同）

【後援】

小田原市

【助成金】

(財) 神奈川心身障害児福祉基金財  
団、社会福祉法人 小田原市社会福利  
社協議会

※ 以上両団とも、昨二〇〇〇年  
度の助成団体。今年度は、申請  
中です。

【協賛金】

田所清人・濱本由美子・郡司耕仁史  
【機材貸出し等】  
城山第一区自治会、むつみ会、城山  
競技場、小田原高校、三の丸小学校、  
関野建具店、小田原愛児園

## 乗馬会レポート

### 三月十日の乗馬会から

| 参加人数 | 会員     | 三十六名 |
|------|--------|------|
| 当日受付 | ボランティア | 八十三名 |
|      |        | 三十八名 |

待ちに待った乗馬会、一月は休みだったの  
で二ヶ月ぶりの乗馬会でした。天気のほうも  
朝は曇っていて大丈夫かと心配していました  
が、雨も降らず一日乗馬会を楽しむ事ができ  
ました。

そして、今月一番のニュースは私たちの仲  
間がたくさん増えた事だと思います。朝日新  
聞さんのご厚意により、「自然・馬・人の会」  
の記事を載せていただき、それを見て参加し  
てくれた方、またこの会の事を聞き、駆けつ  
けてくれた方など、色々な方がボランティア  
として、また当日の騎乗者として参加して下  
さったことをうれしく思います。

この日、私は、会の名の通り自然・馬・人  
を通じて多くの人が多くのことを感じ、学ぶ  
ことができ、そしてあちらこちらに人の輪ができ  
て笑顔があふれる良い会だと、改めて感  
じました。

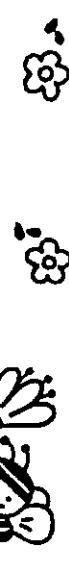
今日の乗馬会でも、バイクでたまたま通り  
かかった若者が騎乗して下さいました。私が

「馬とバイクどちらが乗つてみていいですか？」と問いかけると、「うーん（間）やつぱりバイクかな」との答でした。しかし最後には「オレ、馬にはまりそう！」とのうれしい言葉を残してくれました。

他にも、会員の方のお母さんも騎乗して下  
さいました。しかし話によれば、普段はなか  
なか余裕が無くて、騎乗することはあまりな  
いとの事でした。私は是非お父さん、お母さ  
ん方にも騎乗していただきたいと思っていま  
す。そして同時に安心して騎乗ができるよう  
に出る限りの手伝いをしたいと思います。  
これからもこのようにたくさんの方々が  
この活動を知り、さらには会員になっていた  
だいたり、またはボランティアとして参加し  
て下さることを願っています。

チーさん

## 四月八日の乗馬会から



|        |       |      |
|--------|-------|------|
| 参加人数   | 会員    | 三十八名 |
| 当日受付   | 百二十三名 |      |
| ボランティア | 三十一名  |      |

## 十五号 土岐・運・来 第十五号

今年のさくらは思いがけなく早く咲きました。けれども、今日を待つていていたように咲き続け、はらはらと舞い散る花びらの中の乗馬会になりました。

最近の乗馬会では、乗馬プログラムと並行して、お家の方に記録カードへの記入をお願いしています。その話題の中で、「乗馬会のある日を楽しみに待っています」「乗馬をはじめた頃に比べると、ずいぶん乗り方がうまくなりました」などよく書かれるようになります。会員のみなさんにとって、この乗馬会が生活の一部となってきたのを感じます。また、「ヘルメットをかぶれるようになつた」「姿勢が良くなつてきた」「手綱操作を練習する」「速歩(はやし)になれ」と、乗馬のめあてがグレードアップしてきました。会員もみられます。乗馬会へ続けて参加していくことが、健康な生活につ



なれば、「こんなに嬉しい」とはありません。

春は新しいスタートの季節。乗馬プログラムに参加した方は、「あれ! 馬もニューフェイス?」と気づかれた方が多いと思います。

中ぐらいで、白と濃いの茶色の毛がふさふさの「きんだらう」、白にうすい茶色の毛は「ちやま」、ちびっ子に人気なのはミニサイズでも力もあり「ハイジ」、どの馬もサドルバックいちおしのメンバーです。どうぞ早く仲良しくなってください。

ボランティアも、新しい方が少しずつ増え

てきました。五一さん(田中伸幸さん)のつながりの若い仲間、社会人として経験豊かなシニアエイジの男性方、などなどそれぞれが連つた感性で参加されています。一つ一つの連つた個性が合わさると、「これから「自然・馬・人の会」の活動はもっと発展していくのではないかでしょうか。毎回の乗馬会を終えてから、時間が許す限りボランティアのみなさんと運営委員は反省会を行います。乗馬会を振り返つて、新しいアイデアが飛び出るのは、このなやかなひとときから、ということも多いのです。

(ハマモト)

## 五月十三日の乗馬会から

|        |      |      |
|--------|------|------|
| 参加人数   | 会員   | 二十三名 |
| 当日受付   | 七十二名 |      |
| ボランティア | 二十九名 |      |



「あれ? なんかいつもより少ないよ?...」という言葉と一緒に始まった乗馬会。他の運動会と重なってしまったこともあり人数は少なめでしたが、乗りに来てくれる人達は元気いっぱい! 嬉しそうな笑顔そして笑い声・・・。そしてもちろんボランティアの人達も負けてない! 今回参加してくれた四人のボランティアの人達に乗馬会の事を聞いてみると・・・。



「福社ボランティア」と聞いて参加したので想像とは全然違いましたが、実際は福社というよりは、遊んでる、という楽しい感覚で一日を過ごせました。子供達の頃も乗馬中みるとる変わっていくのが手に取るようになります。今までには困ってる人がいてわからずしていいのか分からずにオロオロしていたけれど、いろいろな人と触れ合つたりするこれが楽しい事だと思いました。最後はす

ぐれ伊良くなれた子も出来たので次回がどうでも楽しみです……」とボランティア初参加の高橋奈央（なお）さん。

そして「馬とどうのはなかなか良いもので乗ることも乗つ事も初めてだつたけどとっても新鮮な感じしました。子供達の楽しんでいる様子を見て、なかなか面白かつたです……」と、こわらわボランティア初参加の一上晋平（ひとがみしんぺい）さん。

また何度か参加している尾鼻（おばな）陽介さんは「当日を担当していたのですが、午前中はお客様が少なかつたので私もミルキーも眠くなってしまいました」と感想を語ってくれました。

そして一緒に参加してくれた加藤陽子さんは……、「多くの人達が乗りに来てくれて楽しかったです。もっと大きく広告して、たくさんの人と馬が触れ合つてほしいと思いました。子供達が楽しそうにしていると、こわらまで嬉しいです……」と話してくれました。

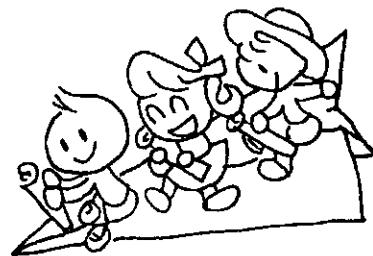
「自然・馬・人の会」という名の通り、馬を中心として自然あふれる小田原城の下、たくさんの人達とのつながりが出来てきた事を嬉しく思います。これからも馬を囲んでたくさんの人達とのつながりが出来てきたいですね。さて六月はどんな出会いが待つているかな?



(きつちやん)



## 第9回「馬と健康社会」研究会レポート（3）



第9回「馬と健康社会」研究発表会（2000/8/20(日) 東大農学部にて――

「障害者乗馬—その基礎研究と実際」というテーマで7つの研究発表)がありました。12号から3回に亘って、その内容をレポートしてきました。今回が、その最終回です。

### 5. 障害者乗馬の多面的効果と評価の検討

(ヒトとウマのインターラクション研究会、愛知県心身障害者コロニー・発達障害研究所・周生期部)

齋野宏臣

障害者乗馬に関わった人・馬それぞれに対し、障害者乗馬の効果を調べて発表されました。

乗り手への効果は、身体機能の向上や心理的な効果が考えられます。そして、保護者への効果としては、馬を見ることで楽しい、子供を通して馬に乗っているという疑似体験が出来る、実現可能なゴールの確認が出来る、安心して日常を離れる安らぎ、自分を越えた子供へのエール、限界の打破、感情の共有、希望の新生などがありました。ボランティアへの効果としては、ともに喜びあえる、達成の喜びが味わえる、身体機能が向上する、充実感がある、意欲が増すなどの効果があります。馬の効果としては、身体的にも精神的にも良い効果があります。最後に、地域社会への効果として、障害者や老人のQOLの向上、馬人口の増加、馬文化の継承に効果があると言えます。

さらに、ヒトとウマインターラクションでは、HEIP scale と HEIM scale という独自のスケールを作り、障害者乗馬の身体的な効果と精神的な効果を分析する研究を進めているということでした。

### 6. 第10回FRDI世界大会報告

太田恵美子 (RDA Japan)

2000年4月26~29日にフランスで行われたFRDI世界大会のプログラムを報告されました。

38ヶ国670名の参加があったこの大会は、セラピューティックライディングにこだわらず馬がもたらすすべてのものについて扱われています。プログラムの詳細はRDA Japanのホームページでも紹介されています。

(<http://www.pmet.or.jp/~pony/>)

### 7. 治療的乗馬における子どもの状態像の評価について

-乗馬過程にみられる半覚醒様状態の理解-

達坂信一 (国立特殊教育総合研究所)

1990年から、障害のある子どもに対する心理的・教育的なアプローチとして治療的乗馬セッションを行ってきました。その中で、騎乗中の子どもたちは100mほど常歩を続けたところで、馬の背でほとんど眠りに落ちているようになります。同時に、手を離したり騎乗の姿勢が変わります。この様子をビデオで見せてくださいました。

対象の子どもたちは、肢体不自由、知的障害、自閉性障害があり、彼らは調和の困難を補償する為にある特殊な箇所に筋緊張を形成しやすくなっています。この緊張が馬の背で揺られることによって弛緩されて、この半覚醒様状態をきたしているのではないかという報告でした。



現在、「自然・馬・人の会」では、関連他団体との積極的な交流を目指しています。このレポートは「馬と健康社会」の研究発表会に参加された、斎藤佳世子さんより寄せて頂きました。3回に渡って、本当にありがとうございました。

